

市民企画提案による
公民館主催講座オリエンテーション

～ 稲城の歴史を学び 史跡巡りをしよう ～

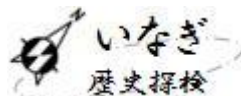
第一回

『杉山神社から鶴見川・多摩川の分水嶺を歩く』



日時： 平成22年11月21日 日曜日 午前10時～午後2時

講師： 渡辺 賢二 明治大学非常勤講師
鈴木 誠 「いなぎ歴史探検」制作者



<http://inagi.info>

<本日の史跡散策コース>

<出発> 第三文化センター → 平和の郷の碑 → 山王橋公園 →
姫宮神社 → 十三塚 → 入定塚 → 御座松塚
→ 黒田家墓所 → 杉山神社・宝泉寺跡 →

<昼食> 稲城ふれあいの森 → 丸石稲荷(中山家)

→ 大塚家墓所 → とうがらし稲荷 → 光仙菩薩の祠 <解散>

**散策中は随時質問を受け付けます。
この機会に郷土の歴史に纏わる色々な
疑問を講師にぶつけてください！**



<散策にあたっての諸注意>

- ・散策中、体調が悪くなった場合はすぐに申し出てください。
- ・道中では『第三文化センター』『稲城ふれあいの森』にしかトイレがございません。
必ず該当の2箇所で御寄りいただきますようお願いいたします。
- ・黒田家、中山家、大塚家の見学は各家の御厚意で敷地内を公開いただきます。
失礼のないようにお願いします。
- ・移動中は道路上に列が広がらないようご注意願います。
- ・各自ゴミは必ず持ち帰りますようご協力をお願いいたします。
- ・途中、緊急事態(はぐれてしまった等)の際は、下記の携帯電話へ御連絡下さい。

【 緊急連絡先： 090-2453-8382 (鈴木携帯) 】



坂浜

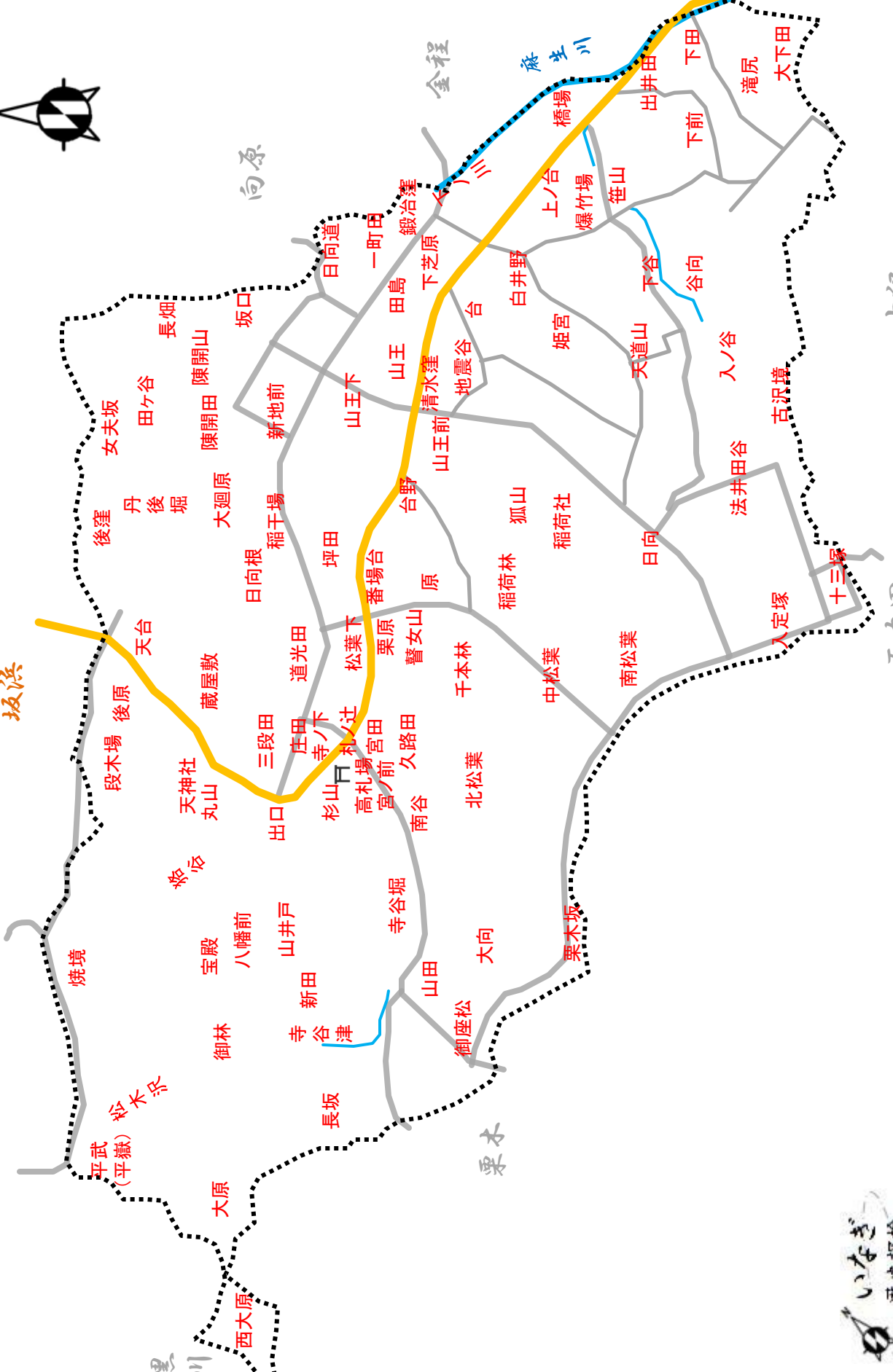
向原

金程

藤生川

古沢

五力田



平尾村

平尾村モ前村ト同邊ナリ江戸日本橋ヨリノ竹程ハ九里ナリ。東西南ノ三方ハ都筑橋樹兩郡ノ界ニナリ。西ノ方黒川村ヨリ南ノ方ハ古澤五力田片平栗木等ノ村ニツラナリ。東ノ方ハ金程細山ノ二村ナリ。又北ノ方ノミ郡中坂濱村ニツバケリ。東西十丁。南北八丁バカリ。鎮守杉山社ノ棟札ノ文ニヨレハ正保ノ比ハ都筑郡ニ属セシト見ユ。モトヨリ郡界犬牙ノ地ナレハシハク變革モアリシナルヘ

シ。村内ノ田畑山林ハ等分ニシテ土性ハ黒土ナリ専ラ糞培ノカヲ借ル水田ノ用水ハ谷々ヨリ涌出スル清水ヲ引ク故ニ旱損ノ患アリ又コノ細流アフレテ水災ヲナスヲモアリ撥地ノ年代等詳ナラス人家四十二軒山野ニ散住セリ當村音ノハサタカナラス御打入ノ時天正十九年ニ黒澤次右衛門重久ハ賜ハリ子孫世々知行セシガ家絶テ牧公トラレシハ寛延二年九月ナリコノ後御代官遣替シテ今ハ小野田二郎右衛門信利支配セリ村内ニ一條ノ往還アリ坤ノ方東京村ヨリ入テ辰ノ方

十一丁バカリノ間村内ヲハテ細山村ヘ建スコノ道郡中布田宿ヨリ江戸ノ往還ハツシケリ又林一ト所村ノ西ニアリ高札場村ノ中央ニアリ小名丹後谷村ノ東ニヨリテアリ。臺東ノ方ヨリ中央ニテラ云。原中央ヨリ少シク北ヘヨリテアリ。大原西ノ方ヘヨリテアリ。

澗尻ノ方ナリ。

神社

山王社 除地七畝 小名原ニアリ。勸請ノ年代ヲシラス。小社ニテ覆屋アリ。南向ナリ。宝泉寺持コノ下ノ三社モ同持。杉山社 二除地 村ノ中央ニアリ。此地ノ鎮守ナリ。神輿ハ鏡ノ如キ銅物ニテ内徑九寸六分。表ニ不動ノ像ヲ鑄出シ。裏ニ武烈見玉郡金屋住人。中村六郎左衛門家吉敬白。延徳二年。壬午丑月廿一日ト

シ。コレ勸請ノ年月ナリ。神二延徳二年ハ庚戌ナリ。支干韻語ス。ヨリテオモフニ二六三ノ字ニテ。午ハ子ノ字ノ誤カ。延徳四年壬子ナルヘシ。本社ハワツカナル。造ニシテ。二間四方ノ覆屋アリ。前ニ鳥居ヲタツ。例祭ハ九月廿八日ナリ。八幡社 除地十 村ノ西ニアリ。小社ナリ。白幣ヲ神輿トス。天神社 除地 字大原ニアリ。小社ニテ覆屋アリ。コレモ神輿ハ白幣ナリ。

寺院

寶泉寺 一除地 小名南谷ニアリ。陽谷山天日院トナリ。新義真言宗ニテ。坂濱村高勝寺ノ門徒ナリ。間山開基ノ未由ヲシラス。本尊大日。木ノ坐像ニテ長二尺バカリ。客殿七間ニ五間。南向ナリ。觀音堂 境内ニアリ。二間四方ノ堂ナリ。十一面觀音ヲ安ス。木ノ坐像ニシテ。長五寸ハカリ。行基ノ作ナリト云。

<平尾の行政区分の移り変わり>

天正十九年	(1591年)	黒沢次右衛門阿部重久が平尾村領主となる。 武州都筑郡師岡庄平尾村といった。(寛永三年検地帳)
寛延三年	(1750年)	黒沢奎之助(六代目)の時、家禄没収となり私領から天領へと変わる。その頃は武州多摩郡府中領平尾村といった。
明治元年	(1868年)	品川県所管だった矢野口・長沼・大丸・百村・坂浜が神奈川県に編入される。平尾は韮山県の所管。
明治四年	(1871年)	神奈川県第三十区。
明治六年	(1873年)	神奈川県第八大区第九小区(戸長・黒田尚雄)
明治十一年	(1878年)	郡区町村編制法(当時の平尾は戸数39戸、人口239人)
明治十二年	(1879年)	南多摩郡に編入、武蔵国多摩郡平尾村となる。
明治二十一年	(1888年)	矢野口・長沼・大丸・百村・坂浜・平尾の六ヶ村が合併して稲城村となる。
明治二十六年	(1893年)	神奈川県から東京府に移管。 東京府南多摩郡稲城村平尾となる。
昭和三十二年	(1957年)	町制施行。東京都南多摩郡稲城町平尾になる。
昭和四十二年	(1967年)	平尾団地の造成工事が開始される。
昭和四十六年	(1971年)	市制施行。現在の東京都稲城市平尾となる。

【平尾は「歴史のない街」ではありません！】

上記のように、天正年間以前の明確な平尾村を示す資料は見つかっていないが、天保年間に盗難された杉山神社御神体の銅丸鏡は延徳四年(1492年)と伝わり、御座松塚は分倍河原合戦の戦死者の墓とも伝わり、また現在の天神通り坂浜方面右側には「蔵屋敷」という中世郷村の地名が残ることからも、平尾地域の日本有史以降の歴史はもっと古く遡れるであろうと推測される。

また、御存じの方も多いと思うが平尾地域からは縄文～弥生時代の遺跡(平尾台原遺跡、平尾馬場横穴古墳)も発見・発掘されており、当地が古代より人の居住する場所であったことは疑いようのない事実である。

<史跡散策資料>

第三文化センター近辺



現在の稲城第三文化センターあたりは「新地前」と呼ばれた場所。江戸時代以降に新たに開かれた水田の南、または向い側と。また、センター前を通る文化通りは鶴見川支流の麻生川のそのまた支流である『神川』が暗渠化され道となっているものである。すぐ裏手、ふれんど平尾から北に向けて谷戸田が続いていた場所で、近辺の古地名も「陣開田」「稲干し場」「坪田」など、このあたり一帯が豊かな水田地帯であったことを示している。

平和の郷 石碑



ふれんど平尾から東側に歩いた山中腹に、平尾土地区画整理事業の「平和の郷」碑が建立されている。平尾住宅団地方面を見渡せる見晴らしの良い場所だ。碑裏面には平尾の歴史を彷彿とさせる、地元諸氏の心の銘文が刻まれているので一読の価値あり。

山王橋公園



下ノ川・神川に架かっていた『山王橋』跡地近辺にある児童公園。最下段の写真は昭和30年当時の山王橋公園近辺の様子。

現在の台原バス停付近には日枝山王神社(千代田区永田町二丁目)から分祀した日吉神社があった。そのため、近辺には「山王」「山王前」「山王下」「山王橋」といった関連地名が出来た。ちなみに、山王社の社殿は杉山神社に合祀される際に平尾下谷の稲荷社に曳かれ、現在跡地には「山王ビル」が建設されている。



姫宮神社



平尾セブンイレブン裏の旧道に入り、狭小な坂道を「天道山」に登る中腹、石段の右手側に姫宮神社の祠がある。
「姫宮」とは天皇家の内親王の別称のことであるが、詳細は不明という。少なくとも江戸時代中期以前よりあるという古い祠。
菊理媛神(白山比咩神)のような日本神話に登場する姫神や、古代信仰の名残である佐々原比咩命(伊豆国賀茂郡河津)のような土着信仰の祠であろうか？ 今後も研究が必要そうである。

十三塚



日本列島各地に分布する、民間信仰による土木構造物で13基の高塚から構成される。築年代は概ね中世頃とされる。
十三仏に由来するとされているが、それぞれの塚毎に伝承が違っているようで、古墳時代の群集墳・経塚・善根のための造塔行為・怨霊や無縁仏の供養塚・境界を鎮護するためなど様々だ。
ここ以外にも稲城市大丸にも十三塚があったとされ、その伝承は元弘三年(1331年)の新田義貞の鎌倉征討途上、分倍河原の合戦の死者を弔うために築かれたとも云われている。
平尾の十三塚は築構年代、目的ともに不明だが、民間信仰または境界鎮護の遺跡と見られる。ここは都内で唯一の現存する十三塚である。
※大規模墳墓と違い、十三塚は小規模であるため文化財として保存されない傾向が強いため、宅地造成などで全国から姿を消している。

この塚は現在も東京都平尾と神奈川県古沢の境界の目印となっており、貞享三年(1686年)に起こった平尾・古沢・片平村の秣場境界問題の時にこの十三塚を境とすることで決着した記録が残っている。
※当時の裁許絵図(馬場家文書)には供養塚として記載されている。

入定塚



径約20m、高さ3.5mの円墳。室町時代末期の天文五年(1536年)丙申八月十五日に鎌倉の僧・長信法印八定上人が入定した塚。
入定とは弘法大師が晩年禅乗に入って遠い未来に弥勒仏がこの世に現れるまで待つという信仰に基づいて、僧侶が瞑想・読経しながら死に至り、生死の境を超え弥勒出世の時まで衆生救済を目的とする修行のこと。

御座松塚



この塚には、正慶二年(1333)五月、新田義貞との分倍河原合戦に敗れた鎌倉方の将士が敗走の最中この地で最期を遂げ、供養塚を作り松を植えたのが始まりという伝説が残る。大山道(相模街道)の一里塚でもあった。
平尾と柿生(栗木)との境でもあり、御神木とされ、疫病や疱瘡神の送り出しの木としても活躍していたようだ。

ただ、残念ながら松の木自体は明治六年の大雪で松の大樹は650年に渡る天寿を全うし倒壊。昭和四十一年からの平尾住宅団地造成で塚自体も本来あった13号棟付近から現在の場所に移されることになった。

『稲城の昔ばなし改訂版』に『平尾の御座松塚』として逸話が掲載されている。

黒田家墓所



黒田家は白井家・馬場家・石井家・鈴木家などと共に、旧平尾村の名主役を務めた旧家である。

墓所から通りを挟んだ反対側に本家宅があったが、平尾住宅団地造成によって姿を消し、本家筋は府中へと引っ越してしまった。現在でも大
山道沿いに分家が数軒残っている。

当墓所には後述の「宝泉寺」最後の住持となった尼僧の墓がある。

宝泉寺



写真は坂浜の高勝寺

真言宗陽谷山大日院宝泉寺は坂浜にある高勝寺の末。建立時期不明。

杉山神社の別当、祈願寺として建立されたが、当時すでに平尾村全体が片平にある曹洞宗夏菟山修廣寺を菩提寺としており、無檀家のため衰退。明治期の廃仏毀釈によって廃寺となってしまった。所在場所は「南谷」とされている。最後の住持であった梅房尼と智開尼の墓が、前述の黒田家墓所に残る。

また、杉山神社裏手の戦没者慰霊碑の傍らにも石仏や石塔など、宝泉寺の寺名が刻まれた遺物が残っている。

「私の地方史研究-武州多摩郡平尾村-」(黒田要著)によると明治三十年頃まで杉山神社の女坂に草庵があったとのこと。

杉山神社

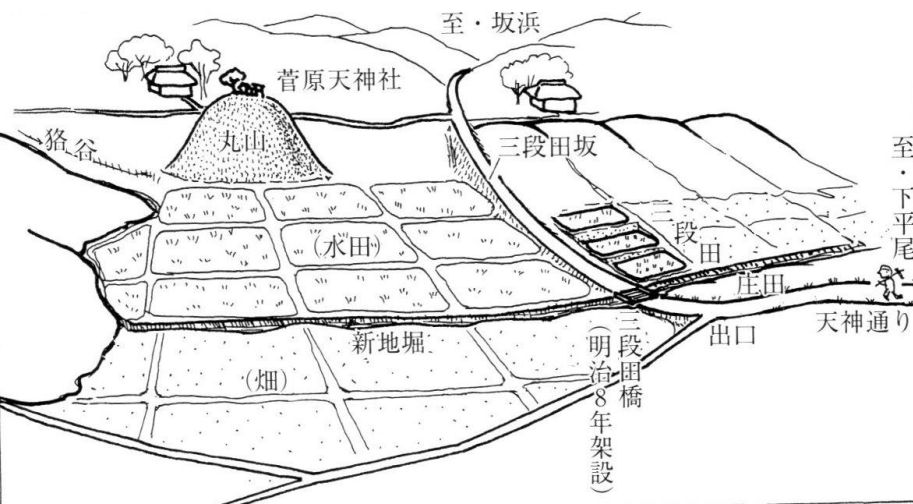


鎮座は長祿年間(1457~59年)とも延徳四年(1492年)とも伝わる。

新編武蔵国風土記稿から換算すると、稲城市内では『坂浜・高勝寺』『矢野口・国安社』に続く3番目に古い寺社であるようだ。

御神体は 風土記によると延徳二年(1490年)と刻まれた銅製銭丸鏡であるが、江戸時代の天保年間に盗賊により持ち去られたため、現在は日本武尊、弟橘姫の木像となっている。現在の本殿拝殿は関東大震災で旧社殿が破壊された後、大正十四年に神饌幣帛料共進神社に指定され遷宮・造営されたもの。杉山神社は関東に72社あり、そのほとんどが現在の横浜市を中心とした鶴見川流域に分布している。明治大学非常勤講師・渡辺賢二先生のお話によると、杉山信仰とは農業の源である「水」を育む森としての森林信仰らしい。また鶴見川最上流部にあたるので信仰上ある種の聖地であった可能性も高い。

府中にある武蔵国総社大國魂神社の六所神社の六之宮と云われているが、証拠となる資料は残念ながらまだ見つからない。



坂浜の小田良へと、かつてあった「丸山」近辺を通りながら歩きます。

坂道を登り切ると平尾住宅の全貌が見渡せる見晴らしの良い場所ですので、カメラをお持ちの方は写真撮影などいかがでしょうか？

大塚家墓所



坂浜の『小田良』という地名は だらだらと曲がった緩やかな湿地の谷という意味らしい。本流である三沢川に向って小田良の谷戸川が流れて行く様が見られる。

この谷の上部は古くより大塚氏が居住しており、現在でも大塚牧場やブルーベリー畑を経営されている。大塚家墓所には『第六天』の祠や中世時代の石碑など古い遺跡が残っている。

【坂浜・平尾は『稲城の遠野』！】

坂浜・平尾地域は民話の里と呼ばれ、『稲城の遠野』といっても過言ではない程、多くの民話が残されています。

今回は中山氏・大塚氏のご協力を得られましたので「夜泣き石」「とうがらし稲荷」「光仙婆さん」など民話の題材となった小田良地区の各遺跡を回ってみましょう。



丸石稲荷(夜鳴き石)



この石は、昔から裏の田圃の真ん中であつた石で、耕作の邪魔になっていた。ある時、この石を掘り出して自宅に持ち帰り、漬物石にしたところ、その夜から台所から変な音が聞こえてくるようになった。気味が悪くなり台所を調べると、田圃から掘り出した丸石が音を出していたので、この石はまた元の田圃に戻されることになった。数年後、また別の人がこの田圃を耕作するようになり、耕作の邪魔になるこの丸石を掘り出して自宅の縁側の下に置きました。すると、やはり夜になると丸石が鳴き出すのが聞こえた。

「この石には何か祟りがあるのでは？」と思い、近所とも相談した上で庭先に祠を作り『丸石稲荷大明神』として祀った。以来、丸石が鳴くことはなくなったという。

とうがらし稲荷



昔々、小田良の新右衛門の家で腹の病気がはやり大変困っていた。

ある夜、新右衛門は夢で「腹の妙薬にはゲンノショウコと唐辛子を混ぜて煎じて飲め」と稲荷様から告げられ、早速お告げ通りに薬を作って家族に飲ませたところ、2、3日で病気快癒しました。

新右衛門は稲荷様に感謝し、お礼に祠を建てて唐辛子を納めて祀り、その後、この稲荷様は誰言うともなく『とうがらし稲荷』と呼ばれるようになった。

また、この稲荷様は、体にできるイボが取れるという評判もあり、別名『イボ取り稲荷』とも呼ばれている。

光仙婆さん



明治時代初期、全国修行の尼僧が当地に立ち寄った。

しかし、尼僧は大変性質の悪い風にかかり、咳が止まず、倒れてしまった。小田良の村人は小さな小屋を建てて一生懸命に世話をしたが、ついに尼僧は病死してしまった。村人たちは不憫に思い、祠を建てて丁寧に葬った。それから百日咳にかかったら、この祠に茶をあげ、その茶を持って帰って病人に飲ませると必ず咳が治ると言われるようになった。

この霊験が評判となり、参拝客が次第に多くなり、ついには『百日咳の神様』と呼ばれるようになったということだ。

<参考資料一覧>

稲城市史(上・下巻、資料編1～4巻)／稲城市史編纂委員会

稲城のあゆみ／稲城市史編纂委員会

稲城市の地名と旧道／稲城市教育委員会

写真で見る稲城今昔／稲城市教育委員会

稲城の昔話 改訂版／稲城市教育委員会

石造物と信仰／稲城市教育委員会

地誌編纂取調簿／稲城市教育委員会

神社明細帳／稲城市教育委員会

寺院明細帳／稲城市教育委員会

稲城市の社寺建築／稲城市教育委員会

稲城市文化財地図／稲城市教育委員会

いなぎ歴史散歩／稲城市教育委員会

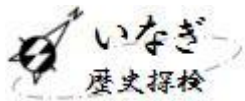
私の地方史研究～武州多摩郡平尾村～／黒田要

ひらお地名の由来と民話／白井規矩三／稲城市立第三公民館

講座 地域史を学ぶ ひらおの歴史資料集／渡辺賢二／稲城市立第三公民館

坂浜散歩／坂浜歴史研究会

新編武蔵国風土記稿 多摩郡／白井哲哉・間宮士信／文献出版



<http://inagi.info>

平尾・小田良も含めた、稲城市内全域網羅の総合地理歴史専門WEBサイト。
興味のある方は是非『いなぎ歴史探検』にアクセスしてください！

いなぎ歴史探検

検索



『杉山神社から鶴見川・多摩川の分水嶺を歩く』資料集

平成22年11月作成／渡辺賢二・鈴木誠